

いごいのみぎわ
天路歷程 ジョン・パニヤン

第25話

2022年5月8日～5月14日 各家庭でのディボーション用テキスト

基督者 なるほど、それであなたは何と答えられましたか。

信仰者 私は彼に言ってやりました、たとえあなたが名をあげたこれらの方々が皆私の親戚だと主張しても（それももつともです、血統から言うと実際彼らは私の親戚だったのですからね）私が巡礼者となった以上は、ちょうど私が彼らとのつきあいをやめたように、彼らは私と縁を切ったわけです。ですから、今となっては彼らは私の血統でないのと少しも変りはないのです。その上彼に言ってやりました。この谷についてはまったく事柄を誤解しているのです。「謙遜は、榮譽に先だち、誇る心は倒れに先だつ」【箴 15:33、16:18】ものですからね。だから、私たちの情愛に最もふさわしいと彼が考えるものを選ぶよりは、むしろこの谷を通して、最も賢い人々が名誉と考えているものに行きたいと思うと言ってやりました。

基督者 その谷ではほかに何も会いませんでしたか。

信仰者 はい、恥知り者に会いました。ですが、私が巡礼の道中で出会ったすべての人々の中で間違った名前を持っているのは彼だけだと思います。ほかの者なら少し議論か何かをすれば、だめと分かって引き退るものですが、この厚かましい恥知り者ときたら、決してそうしないですからね。

基督者 おや、どんなことを言ったのですか。

信仰者 どんなことにもなにも、彼は宗教そのものに反対したのです。彼が言うには、人が宗教に気をかけるなんて憐れむべき、賤しい、卑劣なことだということです。鋭敏な良心なんて男らしくないもので、当代の大胆な連中が慣れっこになっている威張り散らす気ままさに走らぬよう自分を束縛するために、言葉や行為を慎むなら当世の物笑いになるであろうと思いました。彼はまた力ある者、富ある者、賢い者で私と同じ意見のものはほとんどいないし、またばか者になって、何かわけの分からぬものを得るために敢えてすべてを損するような愚かなまねをする気にならなければ、だれも私に同意する者はないと言って反対したのです。【Iコリ 1:26、3:18】その上苦情を言ったのは、主として当時の巡礼者であった人々の卑賤な身分境遇と、すべての自然科学に対する彼らの無知と無理解とでした。【ヨハ 7:48】そればかりか、私がここで話すよりもずっと多くの事についてそんなふうにして私を離さないのです。たとえば、教会の席で説教を聞いていてめそめそしたり嘆いたりするのは恥だとか、ため息をついたりうめき声を出したりして帰宅するのは恥だとか、またささいな過ちについて隣人に許しを乞うたり、人の物を取った場合に返還したりするのは恥だといったようなことです。彼はまた宗教というようなものは、二、三の不徳のために（彼はそれをもっとりっぱな名で呼びましたが）偉大な人々をうとんじさせたり、同じ宗教を信ずる兄弟だということで下賤な人々を仲間と認めて尊敬させたりする、これもまた恥ではないかと言いました。

基督者 それであなたは何と言ってやりましたか。

信仰者 言うにもなにも、最初は何と言ってよいか分かりませんでした。そればかりかあまり私を困らせましたので、血が顔にのぼってしまったほどです。それはまさしくこの恥知り者のせいで、私はまったくたじたじとなって引き下がるところでした。でもやっと考え始めました、「人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる」。**【ルカ 16:15】**それからまた考えました、この恥知り者が語ることは、人間はどういうものかということ、神と神のみ言が何であるかは少しも語っていないと。その上考えたことは、最後のさばきの日に、私たちが死か生かに定められるのは、この世のいばり散らす人物によるのではなく、いと高き者の知恵と律法によるということです。それで私は考えました、神の言われることは、たとえ世のすべての人が反対しようとも、最善であると。それから、神がご自分の宗教を選ばれること、神が鋭敏な良心を選ばれること、天国のために自分を愚かとする者こそ最も賢い者であり、キリストを愛する者は貧しくても、キリストを憎むこの世で最も偉大な者よりも富んでいることを悟って、私は言いました、恥知り者よ立ち去れ、お前は私の救いの敵である。わが君なる主にそむいてお前と交わりを続けるものか。そんなことをしたら、どうして主が来られるとき、そのみ顔を仰ぐことができよう。今もし主の道とその僕たちとを恥じるならば、どうして祝福を期待することができようか。**【マル 8:38】**ところがこの恥知り者は実にずうずうしい悪党で、振り切ってしまうことがほとんどできませんでした。それどころか、彼は私につきまとして、宗教に伴う弱点を何かと絶えず耳にささやくのでした。しかし最後に言ってやりました、この事でこれ以上やってみてもまったくむだだよ。君が軽蔑することを私はかえって最も光栄とするのだから。こうしてとうとうこのしつこい奴から抜け出しました。そうして彼を振り切ってしまったとき、私は歌い始めたのです。

天の召しに従う者の
出会う試みはさまざまで、
肉の思いにかない、
今、また、いつか、
われらを捕え、打ち負かし、投げすてようと
幾度も幾度も襲って来る。
巡礼者よ、おお、巡礼者よ、
目を覚まして、男らしく振舞えよ。

基督者 兄弟よ、君がそんなに勇敢にこの悪党に抵抗したとは喜ばしい。お言葉のように、皆の中で間違った名前を持っているのは彼だけだと思います。ずうずうしくも街で私たちの後について来て、大勢の前で恥をかかせようとするのですからね。本人自身がずぶとくなかったら、あれだけの事をしようとは思わないでしょう。いつも彼に抵抗しましょう。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい